

令和4年度第1回千葉県文化芸術推進懇談会

1 日 時 令和4年8月23日(火) 午後2時00分～午後4時00分

2 場 所 千葉県教育会館 本館608会議室

3 出席委員

草加 叔也 委員(座長)、石橋 拓也 委員(副座長)、植田 憲 委員、卯月 睦彦 委員、こまちだ たまお 委員、椎名 喜予 委員、椎名 誠 委員、辻 宣考 委員、布施 俊幸 委員
以上9名

4 座長・副座長の選出

互選により座長は草加委員、草加委員からの指名により石橋委員が副座長に選出された。

5 議事の概要

(1)「第2次ちば文化振興計画」(平成28年度～令和2年度)について

○令和3年度文化芸術振興施策実施報告(県・市町村・文化施設)

○市町村文化振興施策及び文化施設(劇場・音楽堂、博物館等)運営状況調査結果

「資料1(1-1～1-5)」により事務局から説明し、その後各委員による意見交換を行った。

(意見交換概要)

【座長】

今の事務局からの説明について、まず私の方からご質問したい。資料1-1の1ページ目の計画における全体の指標の実績値が、毎年度増加している。

令和2年度と令和3年度についても、前年を上回るように1年間の文化芸術に触れた県民の割合は増加している。それにもかかわらず、他の指標をみると、令和2年度と令和3年度の実績値は減少しているように見受けられる。

唯一、最後のオリンピック・パラリンピックに係る指標について、千葉県での「公認文化オリンピアド」に参加したアーティストの人数は、イベントを開催されたということで、増加したという傾向は見られるが、他の指標の実績値は減少している。

それにも関わらず、1ページ目の1年間の文化芸術に触れた県民の割合は増えている。もちろん、増加していることは悪いことではないが、この数字について、何か理由等はあるのか。

【事務局】

事務局から回答いたします。ご指摘のあった計画の全体指標については、県民を対象とした県政世論調査により実績を測っております。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、オンラインによる文化芸術の鑑賞が行われるようになったことから、令和2年度以降の調査においては、「この1年間に文化芸術に触れたか」という設問に対する回答に、オンラインによる文化芸術の鑑賞も含めることを明記したことが、実績値に影響したものと考えられます。

【座長】

なるほど、わかりました。

見ることができない、聴くことができない状況があるにも関わらず、県民の皆さんがオンラインで積極的に文化芸術に触れようとした結果が、全体指標に表れている。ポジティブに見れば、そういう言い方もできるかもしれない。

他にどなたか、質問等あればご発言願います。

【委員】

全体指標の実績値として使用している調査の結果について、回答者の年齢層等による傾向があれば、ご教示いただきたい。

【事務局】

本日データを持ち合わせておりませんので、確認の上、後日データを提供させていただきたいと思います。

【委員】

わかりました。

【座長】

他に御意見や御質問等はありませんか。

では、次の議事について事務局からご説明をお願いします。

(2) 「千葉県文化芸術推進基本計画」(令和4年度～令和6年度)について

○令和4年度文化芸術振興施策実施計画(県・市町村)

「資料2(2-1～2-2)」により事務局から説明し、その後各委員による意見交換を行った。

(意見交換概要)

【座長】

事務局から説明があったが、文化芸術振興施策の展開にあたり、基本となるのが「千葉県文化芸術推進基本計画」の第4章に記載されている施策の体系となる。柱を5つ設け、その下に展開する施策を14項目に整理しているということ。また、資料の2-2で、今年度県の各部署が行う具体的な取組が柱ごとに整理されている。

計画の策定は、国の「文化芸術基本法」という法律の中で、地方公共団体が地方文化芸術推進基本計画を策定するよう定めたことから始まった。策定は努力義務であるが、千葉県はいち早く、文化芸術推進基本計画を策定し、文化芸術振興に取り組むこととした。他都市も参考にどのような戦略・戦術を立てていくかというのがこれからの課題である。

この計画は令和4年度から令和6年度までの3年間を計画期間として、1つの区切りにし

ている。文化について、その間で成果を出すには極めて大変かもしれないが。

説明の内容等について御質問や御意見があれば、御発言いただきたい。

【副座長】

まず、計画について、大変間口が広がっていると思う。それぞれの施策ごとに目標を掲げ、その実現に向けて施策を進めていく、大変素晴らしい計画になっている。

しかし、文化芸術というのはもちろん数字も大切ではあるが、それを体験したり、鑑賞したり、それがその人・団体にとってどういう効果を生み出したかとか、という視点も大切であると考え。

定性的というのか、なかなか難しいところではあるが、定性的な部分についても測り進めていくことで、この計画の目指す姿を実現できるのではないかと思う。

【座長】

計画を策定した以上は、その成果を定量的な評価だけではなく、それがどういうものを生み出すことができたかという、定性評価にも目を向け、把握し、残していくことが、評価する上で重要であるというお話だと思う。

文化芸術基本法における文化芸術というのは幅広く、演劇や音楽、オペラ等の実演芸術だけではなく、食文化から娯楽、芸能まで含まれている。

施策の1番目の柱、「あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり」という、最初に社会包摂的な記載をしているが、この点について、御意見等がありますか。

【委員】

計画を拝見し、感想というか閃いたことがあるのだが、伝統文化の分野に障害を持った方が勤める事業所が参入する、そういった取組ができるのではないかと思った。

実際の例として、奈良県のたんぼぼの家という福祉事業所では、グットジョブセンター香芝という施設を置き、伝統文化の担い手として、障害のある方が仕事を行っている。

3Dプリンターを使って、原型を作成し、その彩色を障害を持った方が行うとか、あとは蚕の世話といったことも行っている。現在千葉県も含め、伝統文化の担い手が少なくなっている。それを障害のある方達が担うこともできるのではないかと考えた。

【座長】

障害のある方の仕事にするとともに、アーティストとしても扱おう。そういう事例を紹介いただいた。

【委員】

計画がまだ始まったばかりということもあると思うが、質的な部分をどう担保すべきかという点が非常に気になったところである。

おそらく、各委員の先生方にも関係されるような取組もあると思うが、是非そのあたり、質的な部分についても、記録として残せるような実質的な取組ができると良いと感じた。

先ほどお話のあった3Dプリンターと張り子については、僕らもやってみたことがあり、現在は鎌取にある施設と一緒に取組んでいる。我々もそういった取組で貢献できるのかなと感じた。

【委員】

この計画については、本当に幅広い分野を網羅しているというのが第1印象だ。

改めて、千葉にはこれだけの魅力、ポテンシャル、資産があり、これらをどういう風に活用していくべきかと考えさせられた。

先ほど座長が文化の対象は様々で広いというお話があった。千葉の伝統文化で言えば、例えば行徳であれば神輿、君津の久留里であれば楊枝、南房総の方であるとうちわであったりとか、幅広い物がある。こうした文化については、特産品的な意味合いはあっても、後継者育成という点ではリンクしていないように思える。そうであれば、こうした文化における後継者の育成という取組も必要になってくるのではないかと感じた。

【座長】

地域の伝統文化をどうやって守っていくかというのは、とても大変ではあるが、大切なことだと思う。伝統芸能でも、日本舞踊だとか三曲というのはだんだん継承者が少なくなっている。残念ながら日本の教育の中でも教えない時代になってきており、距離ができて、後継者がいないというのが現状になりつつあると思う。

千葉の伝統文化の中にもそういうものがあるかもしれないので、それはきちんと掘り起こし、どう残していくのが重要だというお話に思える。

【委員】

昨年度は皆様一生懸命この計画づくりを進めていただけて、結果として本当に良い計画ができたなど、改めて本当に感謝している。

もう1回改めてみると、この計画を自分達の地域の中でどのように展開していったら良いか、考えて行く必要があると思う。

文化は非常に幅広いものであるというお話に関して、今、佐原でかき氷を食文化という形

で捉えて、かき氷のスタンプラリーを展開している。食文化という形で、地域の様々な農産物とどう連携するかだとか、かき氷を作るにあたり、地域ならではの形を皆で考えたりしている。

佐原はもともと発酵のまちであるので、例えば甘酒を使ったかき氷ができないかだとか、そういったことを考えながら、食文化としての取組みを展開している。

地域の中で、小さなことでも1つ1つ積み上げながら、残していくべきもの、どのように展開していくべきかを、これから皆さんと一緒に考えていきたい。

【座長】

是非、地域の状況を吸い上げ、紹介いただけたらと思います。

【委員】

先ほどお話に出たように、文化芸術というのは大変幅が広いものであり、多岐にわたり、色々な事が計画に入られるのだと思う。従って、県でこういうことを進めていくには、様々な部署が関わっていかれることと思う。

先ほど局長さんからお話があったが、千葉らしさを発信するというので、今年は海に関する施策も展開される、そうすると文化振興課だけではなく、色々な部署と連携せざるを得ないと思うので、上手くコンセンサスを得て進めていただきたい。

私は観光に係る仕事をしているので、やはりたくさんのお客様に千葉県に来ていただきたい。その点、文化というものは、他県・海外から観光に来られる方にとっても重要な要素であるので、県の皆様をお願いしたいことは、是非こういった計画を策定したのであれば、色々な部局と連携を取りながら、お客様に文化をご案内できるよう、取り組んでいただきたい。

それともう1点、今回の1つ目の柱の中で、毎年同じことを言っているのだが、いわゆる次代を担う子どもや若者の文化芸術について考えるとき、自分がいかに芸術というものに触れていなかったかと考えさせられる。是非、小・中学校の時から、文化芸術に見る・触る・体験する、そういう時間や場所、機会を作っていたいただければと思う。

先ほど座長が仰ったように、3年という短い期間でそう簡単にできるようなことではないと思うが、少なくともお子さんの時からそういうものを触れられるようにすることが大事だと思う。

私も田舎で、郷土芸能、太鼓とかお囃子等を自分でもやるが、それは好きであったからずっと続けられる。先ほど美術でも音楽でもそうだと思うが、子どもの頃から少しでも触れて、少しでも好きになる、そういう仕組みを作っていたいただければ嬉しいと思う。

【座長】

観光という、千葉をブランディングしていくお仕事をされており、色々なことを御存じだ
と思うので、知恵を授けていただきたい。

お話の中にあった「らしさ」、「千葉らしさ」というのは何か、とは難しいけれども、そ
れを見つけていくというだけではなく、作っていく、掘り起こし探していくというのも、大
切なのかもしれない。千葉らしさというものを作っていくというのもあっていい気がする。

私は全国で色々な劇場の計画段階に携わらせていただいているが、その中で「らしさ」を
出すということが一番難しい。「らしさ」を出すためにはどうしたらよいか。お話を聞いて
そんなことを考えた。

【委員】

基本計画のご説明ありがとうございます。本当に多岐にわたって、幅広く網羅されていて
いると思った。

計画の中でも柱の1つ目に掲げている、あらゆる人々がアクセスしやすい文化芸術という
ところが非常に大事だと思っている。気軽に触れられる環境というのが、全ての始まりであ
り、ベースになるのではないか。

先ほど全体指標の実績値について質問させていただいたが、それは現時点でハードルが高
くて、文化芸術にリーチできていないような人達がいるのであれば、そこに向けた打つ手も
色々考えていくことができたかなと思った。

あと、もう1つ面白いなと思ったのが、最後のちば文化のブランド化のところ、海をキ
ーワードにされているところ。これが文化芸術という入口だと海に繋がらなさそうではある
が、千葉県という入口だとすごくフィットして、なるほどなと感じさせられた。

千葉らしさ、千葉ブランドとか海というところをキーワードにして取組まれていくのであ
れば、そこと文化芸術界隈が上手く回っていくような仕組みだったり、施策の展開まで辿り
着けると、本当に良い計画になりそうだなと思った。

【座長】

千葉全体のブランディングを考えるとというのは難しいことだと思うが、是非、民間の知恵、
ブランディングのやり方というのを、ご教示いただきたいと思う。

【委員】

事務局の皆さんの大変なご苦勞があり、無事に計画ができたということで、本当に素晴ら
しいことであると思う。

先ほどから皆さんが仰っているように、文化というものをかなり幅広く捉えられている。

これは街づくり、地域活性化という観点からも、私は非常にいい捉え方だと思っているので、是非ともこの計画の下、頑張ってくださいたいと考えている。

私からは、今年の夏休みのイベントとして、子どもたちのダンスワークショップを週2日、3週かけて計6回実施した中で、気づいた点を2点ほど述べさせていただきたい。

まず1点目、このワークショップは足掛け10年くらいやっているが、今の講師が3人目となり、好評で7年目となる。以前、私が教育委員会の方々と話したときに話題となったのが、子供たちを指導するということには、向き不向きがあるということ。子供たちも、保護者の方からも喜んでもらえる、そんな指導者を育成できる仕組みを、教育委員会等と連携を取りながら、考えていただきたいというのが1点。

もう1点が、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、子供たちはいつ休むかわからないので、担当が毎レッスンごとに動画を撮影し自宅での復習用として、その日のうちにYouTubeで限定配信し、会員のみが見られるという形をとってみた。レッスン後、動画配信の感想を聞いたところ、子供だけでなく、意外にも保護者からも好評であった。

保護者はレッスン中は室内に居られないので、今回の動画配信により、今日子供たちが何をやってきたか、わかりやすく成長過程を見ることができたと非常に好評であった。

担当者は編集で大変だったと思うが、参加者アンケートでも、各回の動画配信は子供にとっても保護者にとっても非常に良かった、是非とも他のワークショップでもやってもらいたいという声があったので、参考としてこの場で述べさせていただいた。

【座長】

なかなか新型コロナウイルスが収束せず、いつぞやまではアフターコロナと言っていたのが、いつからかはWith コロナの時代と言われてしまって、それもなかなか先が見えない状況であり、そんな中で文化を振興していかなければならない。

先ごろ新聞にも載っていたが、続々と舞台芸術は中止となっており、このところの中止の在り方はもう惨状的レベルだと言われているくらい、文化は今、痛みつけられている。

そのぐらい今は危機的な状況にあり、1人発症するとすぐ公演が中止になるということがスタンダードとなっている。それが安全を守るための1つの手段ではあるが、企業も公演をやり続けなければならず、難しい課題となっている。公立館はもっと大変だと思われるが。

【委員】

私は今障害者芸術活動支援事業を行っておりますけれども、もともと自宅で子供達の造形教室を始めたところからスタートしているので、先ほどのワークショップのお話は非常によくわかる。

【座長】

障害者の芸術活動支援に取り組まれている中で、障害者アートというものはどのような状況でしょう。まだまだ日が当たっていないという感じでしょうか。

【委員】

徐々には当たり始めている。今は、ただ感動したとか、そういうところではない、お一人お一人の存在、表現、作品としても価値というのがきちんと伝わるようにしていくのが課題だと思うし、また、取り組む中で小さいころからアートに触れるということの大切さを常々感じている。

そして人材育成という点。今の20、30代の方はどうしても兄弟が少ないということもあり、そもそも小さな子の面倒を見たことがない。人と人と触れ合うことがなかなか難しい。そのような状況だからこそ、人材育成に力を入れていくということが大切だと思っている。

【座長】

計画が掲げる「あらゆる人々が」に含まれている意味としては、障害を持つ方、高齢者の方、子供、それから外国人も、等しく暮らせる共生社会を作っていくということが、これからの都市の課題であると思うし、それを繋ぐ寛容さを作っていくのが文化の大きな役割であると考えます。

文化が持つ力、人を集める魅力をどう活かすか。それを使って千葉というところをブランディングする、価値をちゃんと認められるようなやり方があるのではないかと思います。

今日の議事はもう1つあり、その他の議事として千葉県生誕150周年記念について説明していただいた後に、総括として今日のお話も含めて、色々皆様と整理していきたいと思う。

それでは、150周年記念事業について事務局から説明をお願いします。

(3) その他

○千葉県生誕150周年記念事業について

「資料3」により事務局から説明し、その後各委員による意見交換を行った。

(意見交換概要)

【座長】

では、概要を御説明いただいたので、皆さんから御意見等をいただければと思う。100周年のときはどうであったのか。

【事務局】

100周年の時には、千葉県文化会館が完成したばかりであったため、そこで記念式典の開催や、先人に対する顕彰や、県民の森での植樹祭・農業祭等の取組を行いました。

【事務局】

その他、青年・高校生の海外派遣、少年自然の村建設といった事業も行いました。

【座長】

なるほど。今回の150周年記念にあたり、県民の日である6月15日に向けて行う中心的な事業はありますか。

【事務局】

6月15日の記念行事、県民の日の記念式典というよりは、市町村が主体となって実施する中核イベントが中心となると考えています。

【座長】

委員の中で、千葉生まれ・千葉育ちの方がいたら、まずその方達から意見を聞きましょうか。

【副座長】

先ほど海がテーマということであったが、例えば、普段我々は千葉市や八千代市などの内陸部に海を意識しないが、他県の方たちと知り合いになって、そういった方が千葉市などに遊びに来てくれたとき、やはり海産物が食べたいとか、そういう話をよく伺う。

千葉の文化、魅力発信にあたり、千葉の海をテーマとして掲げるということは、なかなか素晴らしいことだと思う。

【委員】

海岸の埋め立てをする前から千葉に住んでますが、今の若い人達は、完全に海がない風景しか覚えがないので、例えば、稲毛海岸周辺の風景が変わったというのは全然わからない。

私が子どもの頃は、あさが毎日のように食卓に出たとか、文化・生活風習の中でも、食文化というのは、結構大きい変遷があるのではないかと思う。

歴史的な切り口で食文化を追いかけても面白いのではないか。当然、物が貧しく、質素であった時代もあると思うが、そういった食文化の歴史、味の変化みたいなものを振り返るのも面白いのではないかと思う。

【委員】

せっかくの150周年だから、記念となる何かを作るとか、こういう時でないといけないと大きなことができないのであれば、1つの手ではないかと思う。

先ほどの説明で、市町村が主体となる中核イベントを実施するということがあったが、ただ市町村にやろうというだけではなく、せっかくであれば、150年で多少思い切ったことをやってもいい気がする。

後々何をやったかとならないよう、150年でこんなことやったということが残るようにした方がよい。

50年前の100周年記念のときは、何かやっていたなあという印象がある。せっかく県行うのであれば、こんな事業を行ったと、後々残るものがあるといいような気がする。是非期待している。

【委員】

繰り返しになるが、やはり子供向けの事業、ワークショップの実施等を大々的に行っても良いと考える。

私は中学生の時、緑の少年団で、大房岬少年自然の家で植樹祭に参加し、そこで内房の文化を知った。

千葉県は本当に広いので、どこで実施するかという点は難しいところだとは思いますが、子供向けの事業に、もう少し力を入れて良いのではないかと思う。

【座長】

記録を残すということはすごく重要なことだと思う。千葉といえば自然と海、自分たちが住んでいる場所の記録を正しく伝えていくというのは非常に重要だと考える。

食文化というところでも、例えば山形県の鶴岡市というところは、ユネスコの食文化都市に認定されており、鶴岡市に住む人々は、自分達の食文化が普通だと思っている。他の都市で食事をすると、自分たち住む場所の食事が美味しいことに気づかされる。でも、帰るとそれが普通だから、他の都市と比べて秀でていているという、食文化が優れているということが普段は意識されない。

そのような例もあるので、是非その点を、千葉生まれでない人達からも、千葉の良さはこれではないかということをお話していただきたいと思う。鶴岡の人たちは本当に美味しいもの、冬は寒ダラだとか寒ブリ、今はただちや豆、秋になればお米やそれを使ったお酒、果物はラフランスとかメロンなど、1年を通して美味しいものがある。でもそれが、普通の生活だと思っているので、外から見るとうらやましいと思われるものでも、自分達では気づかないと。

もし、千葉県以外の御出身の方で、千葉県のうらやましいと思った点があれば、お話いただきたい。

【委員】

私は千葉県とは別の地方の出身で、デザインの勉強ができる場所を探していて千葉と縁があった。

全国色々伺った中で、千葉県は食べ物が本当に美味しいと思う。海のもの・山の物、種類もたくさんあり、年中本当に美味しい野菜が食べられる。外から見て、とても魅力に感じた。

私が元々住んでいた場所では、日本の伝統的に積み重なってきた暮らしぶりというのはあまり感じることは無かったのだが、千葉県に来ると本当にその魅力というものに驚かされた。

そういったところを学生たちにも知ってほしいと思い、学生たちをしばしば千葉の色々な場所に連れて行っている。

私はデザイン文化計画研究室という所で研究を行っている。食文化を始めとして、例えば着る文化というもの。漁師さんの晴れ着のように、大漁を迎えた年には、みんなで揃いの旗染めの晴れ着を着て、みんなでお正月を同じ衣装を着て祝い、3日3晩飲み明かし、初詣に出向いていく。そういった文化に非常に魅力を感じている。

ただ、千葉県は首都に近いということもあるのか、文化が急速に消失しつつあるという面もあるのではないかと。それは文化が必ずしも形に残るものではない、食文化で言えば、調理し、食し、色々な季節を味わう、その中に様々な意味が含まれている。そういったものが消えて行ってしまうこともある。

文化が人から人へ伝わっていく仕掛け、それをもうデザインと呼んでしまっているのではないかと。必ずしも形に残るものだけではなく、人から人に伝わっていく、あらゆる人が同時代的に生き、触れ合う機会づくり。それをデザインと呼び、活性化していくべきではないかと思う。

千葉に来て、私も文化に関する色々なことを学ばせていただいた。また、今日この場で、皆様のお話を伺ってまた文化、千葉の素晴らしさ、そんなところに改めて気づかされた。

私も本当に人々が感動を享受して、喜びを伝えていけるような、そんなことに寄与できるようなことをしていきたいと思う。

【委員】

ちょうど、千葉ってこんなにいいよねという体験があった。今月、佐原に他所からお客様に来ていただく機会があり、その方はイタリアのテリトリーオの研究など、都市デザインの研究をされている先生であった。

佐原はもともと、日本遺産の中でも利根川舟運で江戸の台所的な役割を果たしていた地域

で、今は酒蔵も2軒しかなくなってしまったが、かつては37軒と、酒蔵・醤油蔵含め、本当に多くの加工文化があった地域だった。

それをもう一度みんなで掘り起こそうとしているところで、たまたま2軒残った酒造のうちの1軒、馬場酒造さんの、酒を造っていた蔵を改修してレストランにしている。

そのレストランでは、発酵フレンチという、全て発酵という視点でお料理をされており、そこでお野菜からお肉まで、全て地元の物で作った料理をお客さんに召し上がっていただき、とても喜んでいただいた。

座長のお話にもあったとおり、地元にいる者は、いつも食べているものの良さを意識できていないので、改めて食文化という点で、全県的にそれぞれあるお野菜、また海の魚、年間を通して地域それぞれの中の食文化がみんなで共有できるような場があったら良いと思った。

それから海というキーワードで、少し古くなるが、利根川舟運の前は、香取の海と呼ばれた内海がずっと続いており、大和朝廷の時代、北の要の非常に重要な地域であった。

今は利根川というのは徳川家康の幕府開府によつての、ある意味人工的な川と言えるけれども、その前は自然の香取の海というものがあったので、そこに接する地域を、海というキーワードで捉え直し、考えていくことができるのではないかと思った。

【委員】

千葉県は魅力的なところで、資産がたくさんあると思う。それが、県外の人にきちんと伝わるような活動というのは、結構難しいことだとは思いますが、150周年の事業はタイミングとしては良い機会であると考えます。

県民の皆様向けの取組に加え、県外の方が目を向けやすいような施策を、そんなに多くはいらぬとは思いますが、ポイントポイントで実施し、千葉のブランディングに繋げていくということ、検討いただきたいと思う。

最初の御説明だと、各自治体が中核イベントを考えるということで、それも素晴らしいと思うし、県民の皆様向けっていうところでは良いアイデアが出てきそうだなとは思いますが、県外にもアピールするという点で認識を合わせ、何か打ち上げ花火的な事業を行うことができれば、非常に良いアプローチになるのではないかと思う。

【委員】

150年というのはそうそうあることではないので、何かを残したい、それが箱ものなのかグッズなのか、PRというものを考えるのは難しい。

メディアと連携して、150周年記念を発信することを考えても良い。例えば、先ほどの香取の海についてのお話は、佐原がテレビ番組で取り上げられた時にも話題となり、なるほどと思った。

佐原や佐倉はメディアでも取り上げられていて、そうした時、千葉ってすごいなと思うことが多いので、150周年を迎える6月15日の付近に、番組で取り上げてもらうとか、そういうPRができれば盛り上がるのではないかと思った。

それから、150年も経ったけど、昔のことってもうわからないよねといったときに、例えば50年、100年前の千葉県はどうであったのか、そういった現在との比較、千葉市はかつてこんな状況であった、駅前はこの風景であった、当時の子供たちはこのような感じで遊んでいた、そんな本がたまに出たりしますけど、そんなものを振り返る機会、イベントや展示的なものができたら、面白いのかなと思った。

【座長】

歴史や生活、そういったことを振り返ることがたくさんあると思う。150年という時間は1人では確実に生きられない年数であって、世代としては2世代以上ないと引き継げない、その時点で引き継いでいる何かがあるということだと思う。150年という時間は届きそうだけれども、とても人間が生きていけない時間であり、少し考えさせられるところがある。そこで歴史が出来ていくのだなと思う。また、次の150年先に向けて何をしていくべきかということも考えなくてはならない。是非そういうアイデアを出していただければと思う。

それから、学校との連携というのはすごく重要かもしれない。大学とか、千葉県内にもたくさん大学の大学があるし、県外から来る学生はどれぐらいいるのだろうか。

【委員】

正確な数字は今ありませんが、6、7割くらいは県外からではないでしょうか。

【座長】

そうですね。私立大学なんてもっと多いかもしれないし、そうなってくると4年間しか過ぎさない千葉というのが、その子にとってどのような印象を残していくのかがすごく重要かもしれない。

千葉で生まれ、千葉で育ち、千葉で亡くなるっていうライフを過ごすという人もいるし、4年間だけ千葉で過ごして、千葉の印象を持ち帰る人もいるんだなと。学生というのは特殊で、4年間で千葉がどんな印象を残して、その子たちが里に帰っていくのだろうかと考えると、ちょっと面白いかもしれない。そういう子たちと一緒に千葉を考えてみるっていうのもいいかもしれない。学が重要なキーワードになるのではないか、そのようなことを思いました。

他にどなたか。事務局からは何かありますか。

【事務局】

本日は、様々な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

150周年記念関係だけではなく、色々なお話を伺った中で、今後の施策の中で活かしていきたいと感じたところを何点か申し上げたいと思います。

まず、今年度の事業についてご説明した際に、施策の柱の1つ目である「あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり」というところで、皆さんの関心をいただいたことが印象に残ったというのが1つございます。

あらゆる人々が文化芸術に親しむという、オリンピック・パラリンピックの開催で非常に身近になった共生社会というものに、文化の振興がきちんと繋がるということが、皆さんのお話を聞いて改めて認識したところです。

その中で、伝統文化の担い手と障害者の方を繋ぐというお話をいただきました。今年から我々の文化振興課で、障害者の文化芸術の振興というのを所掌することになりました。今まで福祉の分野であったものを、福祉ではなく共生社会の中で、障害者の方も一緒に文化芸術に親しみ、心豊かに過ごせるようにしていくためにはどうすればよいかを考える必要がある中で、色々ヒントをいただけたのかなと思います。

また、計画の評価につきまして、数値的な評価が取りやすいというところもあるので、定量的な指標を採用しているところですが、方向性、目指す姿として、心豊かな県民生活と活力ある地域社会というものを掲げておりますので、ここをどうやって測っていったらいいのかなと考える必要があると思いました。

また、前計画は文化芸術に触れるということについて、触れるという中でも鑑賞するという点に比重を置いていましたが、新計画では、「鑑賞」と実際に「体験する」とあえて分けて設定しています。やはり、見るだけではなくて実際に体験するということが大事だという考えで計画を策定したところですが、それが今ご意見をいただいた中で、子供の頃から触れられる、それは見るというよりはむしろ、やってみることであると。ワークショップというお話もいただきましたけれども、やってみるという機会をどんどん作っていくというのが、大事であると思いました。

そうした中で、計画の中にもICTの活用を施策として盛り込みました。先ほど、Youtubeの活用事例についてもお話いただきましたけれども、そういったICT技術の活用も、考えていく必要があると思いました。

また、千葉の魅力について、皆さんから色々お話をいただきました。私は生まれも育ちもほとんど千葉なので、千葉の好きなおところというのが、そこそこ都会的な生活ができるけれど、田舎が近いというのが1番良い。食べ物が美味しいし、少し行くと田園風景があったり、里山の風景や海が見えたりすごく癒される。そうだけれども、東京にも近いし、そうした環境で生活ができるっていうのがすごく良い。そういった良さというのをどういう風に発

信していけばいいのか、色々ヒントをいただけたと思います。

本日いただいたご意見、150周年記念事業もどういう形で残すのか、色々な残し方があ
ると思いますので、頂いた意見を参考にしながら、次の懇談会の時にこんなことをやりまし
たというのを前向きに報告できるよう、我々も頑張って参りたいと思いますので、引き続き
どうぞよろしくお願いいたします。

【座長】

事務局から追加の説明はありませんか。よろしいでしょうか。

それでは、委員からはそれぞれ意見を述べさせていただきましたので、今後の計画の推進
に活かしていただき、また、150周年記念事業に関しても、こんな意見があったというこ
とで参考にさせていただきたいと思います。

私からは以上です、ありがとうございました。